

5	その他の事業
----------	---------------

(1) 地域連携の構築

『日米自然科学博物館事業』

学校や博物館等で利用できる地質・古生物・天文分野の教育プログラム開発を目的として、熊本県と姉妹都市であるモンタナ州(アメリカ合衆国)の自然科学系博物館が連携して取り組んでいる。

当館はプロジェクト参加館とし教材作成やワークショップに参加した。また、完成した教材(指導

解説書)は11月より博物館ホームページにて公開している。

ア Kumamoto Montana Family Day Event

(アメリカ合衆国モンタナ州ボーズマン市)

期 日 5月12日(土)

場 所 モンタナ州立大学付属ロッキー博物館

担 当 野村 美月(天文)

(2) 研修・調査等報告

期 日	場 所	内 容	担当(分野)
6月25日(月)	東京文化財研究所	平成30年度保存担当学芸員フォローアップ研修	甲斐 由香里 (保存科学)
7月15日(日)	阿蘇郡南阿蘇村河陽 (電中研トレンチ)	熊本地震断層剥ぎ取り作業	南部 靖幸(地質) 山口 瑞貴(植物)
10月16日(火)	九州国立博物館	東陵永瑠禅師倚像修理指導立会い	竹原 明理 (美術工芸)
11月11日(日) ～17日(土)	国立歴史民俗博物館、 個人宅	平成30年度歴史民俗資料館専門職員研修会参加及び資料調査	竹原 明理 (美術工芸)
2019年 1月9日(水) ～10日(木)	天草市倉岳町:棚底城	土層剥ぎ取り作業技術指導	南部 靖幸(地質) 清水 稔(動物) 山口 均(理工)
1月11日(金)	九州国立博物館	東陵永瑠禅師倚像修理指導立会い	竹原 明理 (美術工芸)
3月15日(金) ～16日(日)	周防大島町周防大島文化 交流センター (宮本常一記念館)	宮本常一関連写真・資料の調査	福西 大輔(民俗)
3月19日(火)	公益財団法人 永青文庫	平成31年度展覧会に関する調査	植木 英貴(館長)、 木山 貴満(歴史)、 竹原 明理(美術 工芸)

(3) 熊本県博物館連絡協議会

※平成 27 年 6 月より事務局を担当。

加盟館は 41 館。

ア 総会

期 日 6 月 29 日 (金)

場 所 山江村農村環境改善センター
2 階大研修室

イ 専門研修会

期 日 2019 年 2 月 6 日 (水)

場 所 熊本博物館 講堂

内 容 美術品輸送を執り行う日本通運株式会社九州美術品事業所スタッフによる資料保管及び輸送等に伴う梱包方法についての実技を含む講習会。

県内の博物館・美術館職員等 28 名参加。

(4) 全国科学館連携協議会(連携協)

九州ブロック会議

※平成 30 年度九州ブロック幹事館として、当館が会議全般の連絡・調整・運営を行った。

ア 前年度幹事館との事務引継ぎ

日 時 5 月 11 日 (金)

場 所 佐賀県立宇宙科学館ゆめぎんが
出席者 植木 英貴 (館長)
山口 均 (理工)

イ 九州ブロック会議

日 時 11 月 8 日 (木) 14 時開会
～11 月 9 日 (金) 12 時閉会

場 所 熊本博物館
講堂 (1 日目: 会議)
熊本市水の科学館 (以下 2 日目: 視察)
水道記念館
熊本城ミュージアムわくわく座

内 容 全国科学館連携協議会規約に基づき、その目的に沿った事業の円滑な運営を図ると共に、本会議加盟館相互の交流を深める。

また、地域の特性を生かした事業に取り組

むことにより、九州の科学普及向上に寄与することを目的として加盟館が持ち回りで開催。

担 当 山口 均 (理工)

野村 美月 (天文)

協力者 自然系学芸員

プラネタリウム投映スタッフ

6 刊行物

(1) くまはくニュースレター Vol. 1

発 行 11 月

内 容 リニューアルオープンについて
館内紹介 等

(2) 博物館ニュース

発 行 月 1 回

内 容 毎月の行事やイベント等について

(3) 展示会発行物

『リニューアルオープン記念展ガイドブック』

(4) 熊本博物館常設展示ガイドブック

7 調査・研究方針

(1) 基本的な考え方

博物館における調査・研究活動は、資料の収集・保存・展示・教育普及活動の根幹を成すものであり、当館の基本構想および理念を基に、次の点に留意して行う。

- その成果が市民に還元できるものであること。
- 当館の設立主旨に沿ったものであること。
- 将来、展示に活かされるものであること。
- 科学的・客観的なものであること。

(2) 調査・研究の目標

ア 館共通

熊本の歴史と自然および科学技術についての研究を行う。

イ 分野別

【地質分野】

熊本県内を中心に地質・化石の調査を行う。

【動物分野】

熊本県内の動物分布に関する調査を行う。

【植物分野】

熊本県内の植物分布に関する調査を行う。

【理工分野】

楽しく活動しながら自然科学の原理や技術について体感できるような体験型プログラムの開発を目指すとともに、理工分野関連の企画等について調査・研究する（先進都市などの手法を参考にしながら）。

【考古分野】

熊本県内の埋蔵文化財に関する調査・研究を行う。また、寄贈されたコレクションについては、県外の資料についても調査・研究を行う。収蔵資料の多くは未整理なので、分類・整理・資料紹介に努め、市民や研究者などに、幅広く活用いただくことを目的とする。

【民俗分野】

熊本博物館所蔵の資料整理ならびに展示をす

すめ、市民や来館者に新たな情報を提供することを目的とする。

【歴史・美術工芸分野】

熊本博物館所蔵資料の調査・整理を行い、歴史・美術史・工芸史の観点からの研究をすすめ、市民や来館者への情報提供、展示に活用するための準備に努める。

【保存科学分野】

熊本博物館の館内環境を調査し、展示品や収蔵品に適切な状態を保つことを目的とする。

また、資料の修復などについて担当学芸員と相談の上、適切な処置の方法を考える。

ウ 今年度の調査・研究の目標および活動

【地質分野】

館蔵地質資料の整理・再調査。

金峰山山系の岩石露頭調査。

阿蘇郡南阿蘇村河陽での断層地層剥ぎ取り。

平成 28 年熊本地震にて地表地震断層が現れた地点のトレンチ調査地にて地層の剥ぎ取りを行った。トレンチ調査を行った電力中央研究所や、剥ぎ取り作業を主導した熊本大学、作業に立ち会った阿蘇ジオパークや周辺地域の有志の方々の協力により、2m×4mの断層剥ぎ取り標本が得られた。

【動物分野】

金峰山山系および江津湖の動物相調査。

【植物分野】

金峰山および江津湖を中心とした市内植物相の調査。

【理工分野】

子どもの心の中に「不思議のタネ」をまくための科学実験・科学工作等の開発・充実。

小中学校の授業に活用できる学習プログラムや教材・教具等の開発・改善。

【考古分野】

館所蔵の資料の再調査。

【民俗分野】

平成 31 年度の宮本常一展の準備のため、文献・

資料調査等を行う。

【歴史・美術工芸分野】

次年度以降の企画展・特別展に向けて資料調査を実施。

その他、寄贈資料受け入れに伴う諸調査など。

【保存科学分野】

博物館内の温湿度や空気質等を測定するほか、展示室や収蔵庫内の塵埃量を調査し、年間を通じての動向や傾向を調査・比較してい。